

「だけ」の導入をめぐる

— 少量表現として教えたのはどれか？

山本 忠行

【要 旨】

「限定」の意味を表す「だけ」は、英語の only と同じような「少量」を表す機能があると誤解する学習者がいるだけでなく、日本語教師の中にもそのように思い込んでいる人がいる。各種教材の比較の中から、これが『日本語の基礎』から広まったものである可能性が高いということが明らかになった。また、時間の少量表現指導には特に注意すべき点が多いことも指摘した。

【キーワード】 初級文型・少量表現・限定表現・時間の少量表現

1. はじめに

筆者は1996年に「なぜ『だけ』の習得は難しいのか」と題して拙論を発表したが、再度「だけ」をめぐる論考をまとめることにした理由はというと、2006年度日本語教育学会春季大会（東京外国語大学）において、思いもよらない研究発表を聞いたからである。それは前原・小西による共同研究で、「日本語における『少なさ』の表現をめぐる—『数量表現+だけ』を中心に」という題で、『「だけ」は英語で言う only や just の意味として、中でも『数量表現+だけ』（以下、『Qだけ』と略記）は『少量』や『短期間』といった何らかの『少なさ』を表す表現として導入されることが多い』ということを前提に、少量表現指導の問題点を論じ

たものである。

「だけ」は、従来の文型積み上げ式の指導では、限定表現であることを大前提として、「少量表現」と受け止められないような配慮をするのが当然のことと考えていた筆者にとって、こうした発表が行われることは、大きな衝撃であった。「だけ」を「少量表現」として導入するのが一般的だという認識はどこから生じたのか。「限定表現」として指導することは戦前から自明のことと思われるのに、「日本語では対象の属性の少なさ（小ささ）を『だけ』で表すことはできず、『Qだけ』は限定された指示対象を持つ必要があることが明らかになった」などと、あたかも新たな発見であるかのごとき主張が現れたのは、なぜなのか。どうして、こうした研究発表が日本語教育学会の大会で正式に採用され、発表されることになったのか。

このようなことが起こる背景には、従来の文型積み上げ式の初級教育への無理解や軽視があるからではないかと考え、「だけ」の指導について歴史的考証を加えることにした。

本稿では、「だけ」を少量表現として導入することを意図した初級教材が本当にあるのかどうかをまず検証し、過去の教材や参考書などをもとに、「だけ」の指導の歴史的変遷と問題点を明らかにしたい。

2. 「少量表現」とは

本論に入る前に「少量表現」と「限定表現」との違いを明確にしておきたい。「だけ」にはさまざまな用法があるが、大きく分けると①そこまではという程度（限度）、②それ以外のものはないという限定、③種々の慣用的用法を含む相応、の3種類になる。このうち初級学習者で誤用が目立つのが数量とともに用いられる「限定」である。

たとえば次のような誤用が多い。

- 1) *これは 100 円だけです。
- 2) *試験は 10 点だけでした。
- 3) *選手が 10 人だけいるので、サッカーの試合に出られない。

こうした誤用は話者がもっと大きな数量を予想したり、期待していたときの発話であり、適切な表現は次のようになる。

- 1') たった 100 円です。／ 100 円しかしません。
- 2') 試験は 10 点しかとれませんでした。
- 3') 10 人しかいないので、サッカーの試合に出られない。

こうした数量の少なさ（小ささ）を述べることを意図したものを「少量表現」と呼び、単なる「限定表現」とは区別する。

一方、ここで「限定表現」とするものは、単に範囲を限定し、これ以上（以外）ではないという場合である。たとえば、「(小遣いをせがむ子どもに) あと 100 円だけですよ」、「(合格点に) 10 点だけ足りなかった」というような場合は「少量表現」とは見なさない。

2.1 「だけ」の限定表現

倉持 (1969) によると、「だけ」は江戸後期上方語で限定の意味で用いられるようになったが、江戸語では程度・限度・相応の用法は見られても、限定とはっきり言えるような例は少なかったという。近藤 (2007) も「限定の用法を担うようになった」のは明治の中頃以降だといい、『和英語林集成』(1886) の記述を見ても「だけ」の項の説明に only は出てこ¹⁾ない。こうしたことから、少量表現と取り違えられるような「だけ」の用法の歴史はあまり長くないことがわかる。

現代日本語では「だけ」を用いた表現の中には一部「少量表現」と類似したものがある。たとえば、「来たのは 3 人だけだった」「財布に残っているのは 100 円だけだ」、「取れる休暇はせいぜい 2、3 日だけだ」な

どである。それに対して「3人だけ来た」「100円だけ残っている」は、数量を限定しているにすぎず、特にそれが少ないということを強調した文ではない。したがって、大富豪が10億ドルの所得のうち、「恵まれない子どもたちのために1億ドルだけ寄付しよう」と言うことができる。つまり、少量を表していると言えるのは、「～(の)はQだけだ」という文に限られるのである。これは「だけ」が少量の意味を持つというよりも、文の焦点を「Qだけ」に置くことで、「これ以外にない」ということが強調され、少量表現のニュアンスが出てくるのだと考えられる。

2.2 only と少量表現

「だけ」を教える上で問題になるのは only との用法のずれである。英語の only は文字通り one から派生した語であり、他を排除し限定する意味がある。ただ、日本語との大きな違いは “You use to emphasize how small an amount is or how short a length of time is.” (Collins Cobuild Advanced Learners English Dictionary, 2003)、つまり数量の少なさ(小ささ)や時間の短さを強調する機能を有することである。こうした明確な用法の違いがあるにもかかわらず、多くの教科書、辞書、参考書には only が「だけ」の訳語としてつけられている。後述するように、only との違いに配慮したり、詳しく違いを述べたものもあるが、多くは only と記すのみである。もし、「だけ」を only と同じだと学習者に認識させるようなことがあれば、誤用を誘発することにつながるので、こうした教材や解説書は改善を図る必要がある。

3. 研究発表で示された教材例について

前原・小西(2006)が示した例が本当に「少量表現」を意図したものなのかを、まず確認しておきたい。

挙げられている例は次のようなものである。

1) コーヒーを1 ばいだけ飲みました。(SFJ L9 Drills SD3)

2) 先月何日会社を休みましたか。4 日だけ休みました。

(『みんなの日本語 I』L11 練習B)

3) 私はその人に 1 回だけ会ったことがあります。

(『げんき』L11 表現ノート)

では、上記3種類の教科書の執筆者は「だけ」をどう捉えているのだろうか。1冊ずつ検討していこう。

3.1 SFJの場合

第1の例として挙げられたのはSFJである。そこに示された例文や練習問題は次のようなものである。

Situational Functional Japanese Volume 2 : Drills (1992, L9, p.7)

3. 1) コーヒーを飲みました。→コーヒーだけ (を) 飲みました。

2) コーヒーを一ばい飲みました。→コーヒーを一ばいだけ飲みました。

1. ひらがなを習いました。

2. 住所と名前を書いてください。

3. 少し水を飲みました。

4. このアパートには、学生が住んでいます。

5. 研究室には先生がいらっしゃいます。

6. 一週間入院しました。

7. ラオさんがまだ来ていません。

8. 一回見ました。

ドリル3では「Nだけ」の例「コーヒーだけ飲みました」に続けて、「Qだけ」の例「コーヒーを一ばいだけ飲みました」が提示される。だが、

この文が「それ以上飲まなかった」という限定なのか、「たくさん飲みたかったけれども我慢した」という少量なのか、どちらを意図したかは判然としない。この導入では、「Qだけ」の用法に制約があることに学習者は気づかないであろう。しかも、練習問題には、「少し」や「一回」が出ており、少量表現と学習者が受け止めてもやむをえないと思われる。このドリルに続く練習は次のようなものである。

4. 1) Q: さとうもミルクも入れるんですか。

A: いいえ、さとうだけです。ミルクはいれません。

2) Q: 上曜日にも日曜日にも出かけるんですか。

A: いいえ、土曜日だけです。日曜日にはでかけません。

1. Q: 日本人の学生も留学生も来るんですか。

2. Q: 大学でも家でも日本語を話すんですか。

3. Q: 頭もおなかも痛いんですか。

4. Q: 妹さんも弟さんも東京に住んでいらっしゃるんですか。

ドリル4は2つのものを挙げて、1つに限定する練習である。ここには「Qだけ」の練習はないが、2つのドリルを総合的に見ると、「一ぱいだけ」も限定表現として教えようとしたものと見ることができる。

Drills だけでは確実な判断は困難なので、さらに別冊として出ている *Notes* を見ると次のようにある。

Situational Functional Japanese Volume 2 :Notes (1992, L9, p.20)

VII. ~だけ: only ~

[N] だけ is used to indicate a limit (just, only) :

1. シャツだけ (を) ぬぎました。 (I) *took off just the shirt* (no more).

2. 切手は10まいだけ買いました。 *As for stamps, I bought just ten* (no more).

3. 山田さんだけ (が) 欠席しています。 *Only Yamada-san is absent.*

SFJの *Notes* を見る限り、見出しには *only* を出してはいるが、解説には “to indicate a limit” とあり、*only* と同じと捉えられることを避けようとしているようである。挙げられている例文に出てくる数も「10まい」であり、少量とは言えず、*no more* や *just* によって、これ以上 (以外にない)、つまり「限定」であることを示している。

前原・小西がもう1つ少量表現の例として挙げているのが、13課の *Conversation Drill* (p.110) である。

A: 日本語がお上手ですね。(略) もうどのぐらいやっているんですか。

B: そうですね。1か月ぐらいですが。

A: 1か月だけですか。すごいですね。

たしかに少量表現のように見えるが、文脈からすると、これは「*1か月だけ日本語をやっているんですか」ではなく、「日本語をやったのは1か月だけなんですか」という文がもとになっているので、文型の違いに着目する必要がある。これを *Notes* ではどう処理しているのかと思ったら、「しか」を用いた例が示されていた。(p.147)

A: どのくらい日本語を勉強しているんですか。

B: まだ、3か月しか勉強していません。

このようにSFJは *Drills* と *Notes* を比較すると、やや矛盾が見て取れる。*Notes* を執筆した著者と *Drills* を執筆した著者の間の調整がうまくとれなかったのか、それとも先に *Drills* を書き上げ、*Notes* を執筆する段階になって修正したのであろうか。「だけ」が限定表現であることを明確にしたければ、*Notes* の記述のようにL9のドリルでは「少し/1回/1杯」などを避けて他の語を用い、L13では少量表現として「しか」をきちんと

取り上げるべきであった

3.2 『みんなの日本語初級Ⅰ』の場合

前原・小西 (2006) は「先月何日会社を休みましたか。」「4日だけ休みました。」をL11の練習として挙げているが、これは引用の間違いであって、実際は次のようになっている。

『みんなの日本語初級Ⅰ』 (1998, p. 92)

練習B

6. 例：先月 会社を休みました。(4日)

→先月 何日会社を休みましたか。

……4日休みました。

これは少量表現の練習ではなく、練習問題には「4年、2週間、8時間、10分だけ」といった語が示されており、期間の長さを述べる練習である。この中の最後に「10分だけ」が入っているが、「だけ」を取り立てて少量表現の練習をすることが目的ではない。

11 課冒頭の導入用例文には次のような会話例が示されている。(p. 88)

A：田中さんはどのくらいスペイン語を勉強しましたか。

B：…3か月勉強しました。

A：えっ、3か月だけですか。上手ですね。

この例は驚きを伴っており、少量表現を意図した可能性が高い。では、『みんなの日本語初級Ⅰ』のもとになっている『新日本語の基礎Ⅰ』はどうなっているかということ、同じく11課の例文に次のようにある。

A：国でどのくらい日本語を勉強しましたか。

B：…3週間だけ勉強しました。

だが、こちらの例には驚きのニュアンスがなく、限定にも少量にもどち

らにもとれる。

ところが、奇妙なことに、この2冊の教科書の参考書では、様相が異なる。『新日本語の基礎 I 教師用指導書』(1992)は「だけ」を少量表現として教えると明記している。これに対して、『みんなの日本語初級 I 教え方の手引き』(2000)には、「少量表現」として「だけ」を導入することが期待されているのかと思われたが、「だけ」の指導に関する特別の記述は全くない。期間の長さを表す表現の練習として、「— 時間、— 週間、— か月、— 年、～ぐらい、どのくらい、～だけ」などの語彙を使って練習することになっている。『～だけ』『～ぐらい』は『だけ1回』『ぐらい3か月』とならないように使い方の練習をする」と形式に関する説明が付されているのみである。

では、「しか」との対比はどうなっているかを『みんなの日本語初級 II 教え方の手引き』(2001)で見ると、『しか』は、常に否定形と呼応し、『それ以外はない』という限定の意味を表す。(p. 33)と説明し、留意点として『だけ』との違いを質問された場合は、『しか』は『～ません』の部分に重点があることを例で示す。」とし、次の会話例を挙げている。

A : 1,000 円貸してただけませんか。

B : すみません。500 円しかありません。(500 円より多くはないことに重点)

「しか」の意味を「限定」とし、「500 円より多くはないことに重点」とするこの記述からは、この教科書の執筆者が「少量表現」と「限定表現」を区別する必要性に気付いていないことがうかがわれる。

3.3 『初級日本語げんきⅠ』の場合

前原・小西 (2006) は次の「表現ノート」の一部を引用し、「『Qだけ』がもっぱら『少なさ』の表現であるかのように見せている点」が問題だと述べている。

『初級日本語げんきⅠ』(1999, p. 217)

だけ implies that you have something up to the amount needed, but not more than that.

わたしはその人に一回だけ会ったことがあります。

一つだけ質問があります。

三十分だけ寝ました。

だけ suggests that you can live with that few, though the number admittedly could have been higher. (中略) しか, which means “only” in the sense that you do not have enough of.

これを見ると、前原・小西は、著者の意図を正確にくみ取っていないようである。例文の前では not more than that (それ以上ではない) とし、後では can live with that few (それでいい) と述べ、少量を強調したものとはなっていない²⁾。しかも「しか」と対比しており、限定であることを理解させようとしたものと見るべきである。

この解説がつけられている、もとの会話文は次のようなものである。

第11課 会話 (p.210)

メアリー：みちこさんの休みは楽しかったですか。

みちこ：まあまあでした。1日だけドライブに行きましたが、毎日アルバイトをしていました。

これは「毎日」と「1日」を対照させることで、少量ではなく限定であることを伝えようとしたものと考えられる。

なお、『初級日本語げんき I』では、あとの課で、「も」と「しか」を対照することによって、少量表現には「しか」を使うことを学ばせようとしている。

14 課 会話 (p. 29)

ジョン：ロバートさんはチョコレートを 10 個ももらったんですよ。

たけし：ジョンさんは？

ジョン：ぼくは一個しかもらいませんでした。大家さんから。さびしいなあ。

これにつけられた文法解説は次のようなものである。(pp. 36-37)

You can add も to the number word, when you want to say “as many as.”

私の母は猫を三匹も飼っています。

きのうのパーティーには学生が 20 人も来ました。

You can add しか to the number word, and turn the predicate into the negative when you want to say “as few as” or “only.”

私は日本語の辞書を一冊しか持っていません。

この会社にはコンピューターが二台しかありません。

上記のような教材の構成や解説を見る限り、『初級日本語げんき I』は「だけ」を学習者が少量表現として理解してしまうことを、避けようとしていることがわかり、前原・小西 (2006) が少量表現として導入する例として挙げたのは不適切である。

3.4 3種の教材例は少量表現として導入しているのか

これまで見てきたとおり、この3種の教科書のうち、『初級日本語げんき I』は「だけ」を限定表現として導入し、少量表現としての導入を明

らかに避けようとした教材であり、SFJ は解説と練習問題の統一性にやや混乱が見られるものの、Notes は限定表現であることを理解させようとしている。

問題として残るのは『みんなの日本語初級 I』である。教科書自体は、あえて限定だとか少量だとかにこだわっておらず、「だけ」を正しく理解させ、使えるようにするための配慮は感じられない。どうして『みんなの日本語初級 I』では、「だけ」の扱いが他の教材と異なるのかという問題は、第 4 節で検討する。

3.5 挙げられた誤用例について

前原・小西 (2006) は教材例に続けて、次の誤用例を挙げている。

- 1) ?? 私の娘は 3 歳 だけです。
- 2) ?? この携帯電話は 100 円 だけです。
- 3) 「お宅は駅から遠いんですか。」「?? いいえ、5 分 だけです。」

前原・小西 (2006) の発表のポイントとなっているのが、教材例と誤用例の許容度の違いである。そして、それを「数量表現のうち属性を表すばあいには、いかにその数量を『少ない (小さい)』と捉えても、『Q だけ』の形では表すことができない」と分析している。しかし、この「属性」という概念をキーワードとして、数量を表すものと対比させて「だけ」を使った文の正誤を論じようとしたものの、「だけ」に少量表現の機能があるという前提で論じているために、おかしい議論となってしまう。

- 3') 「お宅は駅から遠いんですか。」「いいえ、バスに乗っているのは 5 分だけなんです、そのバスの本数が少なくて……」

3) の誤用例に手を加えた 3') は、「属性ではなく、乗車時間という数量 (時間量) を表しているため」問題なく許容されるのだと説明するが、

駅から家までの距離が5分であることを述べれば「属性」で、乗っているのが5分であれば「数量」だというのは、納得しがたい。これは構文的な違いである。少量表現「5分しかかかりません」の代用として「5分だけです」ということはできないが、「乗っているのは…」と分裂文にすることで、2.1で述べた理由から限定表現が使えるようになるのである。ただし、こうした表現を初級前半段階で扱うには無理があるので、「だけ」の指導は「これ以外にない」「これ以上ない」という意味であることが明白なものに限定しておき、段階的に行っていくのが望ましい。

前原・小西(2006)は分析のまとめとして次のように述べている。

- ・数量表現Qが「属性」を表す場合、その「少なさ(小ささ)」を「だけ」で表すことはできない。
- ・「Qだけ」が許容されるのは、それが「部分」として限定された指示対象を持つ場合だけである。

「属性」にこだわっているために、複雑な記述となっているが、要するに、「Qだけ」の機能は「限定」にあり、「少量」を表すことはできないというのである。ここに挙げられた誤用例は、もともと少量表現の機能がないう「だけ」を用いて、少量表現をしようとしたことによって生じた誤用とみれば、あえて複雑な説明は不要である。

4. 過去の参考書や教科書などに見る「だけ」の扱い

4.1 戦前

まず、戦前の日本語教育で「だけ」がどのように扱われていたのかをみておきたい。昭和初期によく使われた教科書の一つである松本亀次郎の『日本語教科書』(1927, p.104)をみてみよう。

第77課

- 1) 唯今 御勤めの處は、この學校丈ですか。

- 2) 此の頃 學校の授業は午前丈ですか。
- 3) あの學校は、設備は餘り善くないが、教員丈は揃って居ます。
- 4) 上等の紅茶を、一圓だけ 賣って下さい。
- 5) 君のノートを、今日一日だけ 貸してください。

これらの例は明らかに限定表現のものである。松本の教科書は難易度に関する配慮が乏しく、同じ課に「～だけに」「～だけ、…だ」などさまざまな用法も提示されているが、少量表現と混同するようなものは皆無である。なお、「しか」は「きり」「かぎり」とともに別の課 (p.130) にまとめられている。例文のいくつかを次に示す。

第91課

- 1) 今年モ、年ノ内ハ、モウ五日シカアリマセン。
- 2) コノ品ハ、コレキリデ、外ニハゴザイマセンカ。
- 3) サヨウデス。唯今 其レーツシカ ゴザイマセン。
- 4) 某君ハ 卒業シテ歸ツタキリ、一度モ 手紙ヲ ヨコシマセン
ガ、多分 達者デ居リマセウネ。
- 5) 懸賞文ノ締切りハ、本月二十五日限りデス。

このまとめ方をみると、少量表現と限定表現を区別する意識はあまりないようだが、「五日しかない」「一つしかない」などの例を挙げているところをみると、「だけ」の限定機能との違いは捉えていたように思われる。

青年文化協会が1942年にまとめた『日本語練習用日本語基本文型』に挙げられた例文は次のようなものである。(p.177)

- (一) ①二月だけは二十八日です。
- ②犬だけは元気よく雪の上を走り廻ってゐます。
 - ③鈴の音が聞こえるだけで馬は見えません。
 - ④明日は行かないかもしれませんが仕度だけはしておいてください。

⑤そのことを知ってゐるのは私だけです。

× ×

⑥そのバナナを一圓だけください。

⑦豆を年の數だけ食べました。

これを見ると、「Qだけ」は「Nだけ」と別扱いになっている上、限度・相応の例のみである。このあとは(二)が「できるだけ…」「～ば～だけ」、(三)「～だけあって」、項を改めて「しか」「きり」などが続く。このような構成からは「だけ」と「しか」の違いをある程度意識した編集が行われていることがうかがわれる。

国際文化振興会は1944年に『日本語基本語彙』と『日本語表現文典』を出版している。『日本語基本語彙』では「數量や事物を限定する意味を表はす」として、用法を①限定、②價格に相當、價值に相應することを示す、③限度、の3点を挙げ、『日本語表現文典』は「⁴⁾人體二つの用ひ方がある」として、(A)それと限る意を表す、(B)限度を示す、(C)事物に相應する意味を表す、としている。順番に違いはあるが、内容には大きな差はなく、少量表現と取り違えるような例は見あたらない。

このうち『日本語表現文典』では、(B)と(C)の間に、「数詞につけて、數量を限定するにも用ひる」として次のような例を挙げている点が注目される。

今度の旅行には、少なくとも二百圓だけはかかりませう。

家族は親子三人だけです。

姉は私より五つだけ年上です。

このようにわざわざ「Qだけ」を別項目として取り立てたのは、教育経験の積み重ねから重要性に気付いたのであろう。ただ残念なことに、「しか」の項目では「ここにはペンしかない」を「ここにあるのはペンだけだ」という意味だとして、単に文末が肯定か否定かということしか記述

されておらず、発話意図の違いや少量表現としての用法にまで掘り下げ
ていない。

4.2 戦後

次に戦後の教科書における「だけ」の扱いをみてみよう。

4.2.1 長沼直兄の場合

まず、1950年発行の長沼による『標準日本語読本巻一』の第一部では、
次のような例文が使われている。

1) はじめは本を使わないで、話だけをします。(L45, p.114)

2) ぼっちゃんとおじょうさんがひとりずつありましたが、さく年
ぼっちゃんに死なれたので、今ではおじょうさんがひとりだけ
です。(L49, p.127)

第45課では「Nだけ」で限定の意味を導入し、第49課で「Qだけ」が
出てくる。2人のうちの1人が亡くなったという文脈なので、少量を表
す文とは言えない。これが1988年発行の『長沼現代日本語一』になると、
さらに工夫が見られる。(p.131)

A: 白くろはあいにく一本しかありません。

B: そうですか。じゃ一本だけでけっこうです。

これはフィルムを2本買い求める場面であるが、少量であることを「し
か」で示し、それ以上は不要であるという限定の意味で「だけ」を用い
ている。これだけ短い会話で的確に「だけ」と「しか」の機能の違いを
理解させる例文が出ている教材は、まれである。

4.2.2 『日本語の基礎』の場合

次に『みんなの日本語』のもとになっている『日本語の基礎』(1974)が「だけ」をどう扱っているかを見てみよう。

第9課 例文 (p.53)

あなたはお金がいくらありますか。

— 100円だけあります。

同じ課の練習Bの7番は次のようなものである。(p.56)

例：お金が100円あります。

— お金が100円だけあります。

- 1) お金が少しあります。 —
- 2) 日本語を少し勉強します。 —
- 3) 日本語を1時間勉強します。 —
- 4) 漢字が少しわかります。 —
- 5) きょう会社を休みます。 —

一見して気付く『みんなの日本語』との違いは、「だけ」を入れる練習だということである。つまり、もともと『日本語の基礎』では第9課で「だけ」を導入し、第11課で期間の長さの表現を学習していたのである。

ここに示した例文と練習、さらに『日本語の基礎II』(1981)にも「しか」が出てこないことから判断すると、『日本語の基礎』の著者は少量表現か限定表現かをほとんど意識しておらず、初級で教えるのは「だけ」で十分と考えたようである。「100円だけある」は、今持っている金額を客観的に述べたものなのか、それとも本当はもっと持っていることが望まれるのに、不足しているということを言いたいのか、あいまいな文である。練習問題5つのうち、3つで「少し」を使っているので、少量のつもりなのであろう。しかし、「1時間だけ勉強する」「きょうだけ会社を休む」というのは、少量というよりも、限定のニュアンスのほうが強

い。

『日本語の基礎』が大幅に改訂された『新日本語の基礎 I』(1990)では、「だけ」の初出は第 11 課となり、『みんなの日本語』と同じように期間の長さの練習のみで、「だけ」の扱いは教師に委ねられている。ところが、それにもかかわらず、教え方を説明した『教師用指導書』(1992)には「『数量の少ない』場合を主に学習するが、クラスによっては『限定される事物』を示す場合も学習してもよい」とある。同様に、有馬(1993, p.304)には「数の少ないことを強調する時に使う」と少量表現であることが明記され、以下の記述がある。

「小さい数字+だけ」

「すこし+だけ」

わたしはこどもがひとりだけいます。

わたしはまいばん 30 分だけべんきょうします。

わたしはごはんをすこしだけたべました。

〔注意〕 「だけ」は数の後に付く。

〔練習〕 例：1 日だけ勉強しました。

1 週間、1 時間、1 か月、少し

さらに少量表現を指導したあとで、できる学生には限定表現も教えるとして、次の例が示されている。

上クラス 吉田先生は木曜日だけ来ます。(限定)

インド人は野菜だけ食べます。

いずれにせよ、『新日本語の基礎 I』では、すでに述べたように「だけ」を挿入する文型練習はなくなっているが、この理由は推測するしかない。もともと L9 にあった「だけ」を L11 に移動したために練習を用意できな

くなったのか、それとも『新日本語の基礎Ⅱ』のL27に「しか」が導入されたところを見ると、「だけ」を only と同じように少量表現に用いる学習者の誤用を増やすことにつながるおそれがあると編集者が気付いてあいまいな処理をしたのかもしれない。

4.2.3 IMJの場合

文型積み上げを基本としながら、自然な日本語の習得を目指した教科書として定評のある *An Introduction to Modern Japanese* (1977) では、どのような文で導入しているであろうか。

L19 Dialogue (p.222)

母：いもうとさんは？

ジョンソン：いもうとは大学の寮にはいつています。

母：そうですか。

ジョンソン：ええ。ですから、いま、うちにいるのは両親だけです。

L19 Explanation (p.227 ※原文はローマ字)

1) ほかのひとも行きますか。

いいえ、わたしだけです。

2) そんなに払わなくてもいいんです。千円だけ払ってください。

(同)

教科書には「だけ」の用法に関する詳しい記述はないのだが、ここで注目されるのは、Dialogueの中の文が「～のは、…だけだ」の文型となっており、誤用になりにくい文型で示されている点である。そして、その訳も “So my parents live alone in our house.” となっており、only が使われていない。また、Explanationに示された例1では、「ほかのひとも行きますか」という問いかけに「(行くのは) わたしだけです」と限定的に答え、例2では「そんなに払わなくてもいい」と明らかに限定の

表現となっている。解説に示された1)、2)の訳もそれぞれ “No, Just me.” と “Pay just 1,000 yen, please.” となっており、少量表現と誤解しないよう配慮されている。

4.2.4 『技術研修のための日本語』の場合

海外技術者研修協会の『日本語の基礎』を取り上げたので、参考までに国際協力事業団から出された『技術研修のための日本語』(1984)ではどうなっているかを、みておきたい。

第11課 (初級1、p.145)

カマラ：手袋もしなければなりませんか。

インストラクター：いいえ、しなくてもいいです。きょうは見学だけですから。

第23課 (初級2、p.99)

マリア：それはネームカードを作るために使います。

リー：20まいしかありませんよ。

マリア：ええ。パーティーに来る人は15人だけですから。

まず、上記のようにL11で「Nだけ」を導入し、L23で「Qだけ」が出てくる。その際、「しか」と「だけ」を次のように対比させている。このように明確な形で示されれば、学習者も用法の違いを容易に学び取ることができるであろう。これを補強するように、*Grammatical Notes* (1985)も発行されている。

Grammatical Notes (p.120)

The difference between “*dake*” and “*shika*” is that the speaker feels the amount referred to is very small in the case of “*shika*”, while “*dake*” doesn't have such a connotation. ここでは明確に少量表現は「しか」を用いるべきであることを示してい

る。『日本語の基礎』と比べれば、大幅な改善である。

4.3 英語による解説の進歩

戦後しばらく勢いを失っていた日本語教育は1970年代ごろから徐々に広がりを見せはじめるが、ちょうどそのころ作られた教科書 *Intensive Course in Japanese Elementary* (1970) の *Notes* には、すでに次のような記述が見られる。

L8 (p.116) (※下線は筆者)

- ・だけ means ‘only’ or ‘just’ and is used to limit the number or amount of the めいし (noun) to whichi it refers.
- ・But しか is more emphatic in the negative sense and also implies that the thing to which しか refers is very small in quantity.

すでに英語による解説文に明確に「しか」が少量表現、「だけ」が限定表現であることが述べられている。

英語で書かれた文法書として評価の高い Alfonso の *Japanese Language Patterns*. Vol.2 (1980) には次のような説明がなされている。

p.712

DAKE has a basic meaning of ‘EXACT AMOUNT’. But it is used in five or six slightly different types of expressions, so that the force of DAKE changes just a bit in each. The three most common of these types could be identified by the three equivalents: ‘only’; ‘all (there is)’; and ‘worth’. It would be a mistake to equate DAKE with the English ‘only’. Rather think of it as meanin ‘so

much AND NO MORE', or 'PRECISELY so much'.

ここでは英語の only と同じ意味だと誤解することは、誤用を生むことにつながるのだが、はっきりと述べられ、限定の意味と理解すべきだとしている。さらに「しか」については以下のように述べている。

p. 732

SHIKA is the Japanese word equivalent to the English 'only'. Sometimes DAKE can be translated this way, but only when the amount specified is a small amount ---remember that the true meaning of DAKE is 'exact amount'. To express the idea of 'this and NOTHING ELSE', use SHIKA.

「だけ」と「しか」の用法の相違点を簡潔明瞭に述べ、only の用法と異なることを示した説明である。

4.4 『日本語の基礎』の異質性

これまで見てきたことから浮かび上がってくるのは、「だけ」の扱いは『基礎日本語』が他の教科書と比べて、きわめて異質であるということである。松本(1927)では限定と少量の違いを意識しているようには見えないが、第二次大戦中に発行されたものからは、「だけ」は「限定」「限度」であることが強く意識されていたことがわかる。さらに戦後発行された教科書の多くは、「だけ」と「しか」の違いを理解させるためのさまざまな工夫が見られる。特にそれが顕著なのは、日本の経済成長と共に留学生が徐々に増え始めた 1970 年代からである。

ところが、ほぼ同時期に編集された『日本語の基礎』では「限定」と「少量」を区別するどころか、違いを無視している。この背景には技術研修生用の日本語教育という特殊性があるのかもしれない。留学生のための日本

語教育と比べて、きびしい時間的制約の中で行われるものであるため、多少の不自然さに目をつぶる、あるいは英語をはじめとする他の言語に置き換えることでは済ませる、というようなやり方が背景にあるのだと思われる。結果として、日本語の「だけ」を学習者は英語の only や中国語の「只」、あるいはタイ語の thâonán などに相当する語だと思い込み、誤用につながってしまうことになる。⁵⁾

このように 1970 年代にはすでにわかりやすく、丁寧な英語の説明も行われるようになり、「だけ」の指導に工夫をこらした教材が作られるようになったにもかかわらず、その後『日本語の基礎』をベースに開発された『新日本語の基礎』や『みんなの日本語』では、「だけ」の教え方を改善するという方向ではなく、曖昧にすます、とでも言える方向をとった点で、非常に特殊な教材である。

こうした教材で日本語教育を学んだ若手日本語教師が「だけ」は「少量」表現だと思い込み、学習者の誤用を増やしているとすれば、残念なことである。

5. 時の少量表現をめぐる

2.2 に示したように、only はものの数量だけでなく、時間の少なさを表すことにも使われる。前原・小西(2006)では、2.5 に示した誤用例のうち、

1) ?? 私の娘は 3 歳 だけです。

を「まだ 3 歳です」と訂正できることに着目し、少量表現の一部として「まだ」を初級の早い段階から教えることを提案している。

ここで考えなければならないのは、時に関する少量表現にはどのようなものがあるかという基本的な問題である。では、時間の短さを表現するのに、どのような表現が使われるのであろうか。

5.1 時に関わる多様な少量表現

時に関する少量表現は、「まだ」一語ですませられるような単純なものではなく、さまざまな表現が考えられる。たとえば、経過時間の短さを述べるには、次のような言い方が可能であろう。

- a) 日本へ来て、まだ一週間です。
- b) 日本へ来て、たった一週間です。
- c) 日本へ来て、ほんの一週間です。
- d) 日本へ来て、わずか一週間です。
- e) 日本へ来て、一週間にすぎません。
- f) 日本へ来て、一週間しか経っていません。

ニュアンスの微妙な違いとともに、文型の違いも重要であることが分かる。この「一週間」を他の語に置き換えてみたらどうなるだろう。たとえば、誤用例の「娘は3歳です」ではどうか。a)～e)はそのまま入れ替えられるが、f)は誤用となる。

f')? 娘は3歳にしかありません。

f'') 娘は生まれて3年しか経っていません。

同じ意味のことを、時間の幅ではなく、「前」をつけて過去の一時点として述べると、表現がまた異なってくる。この場合も「3歳」ではなく「3年前」とする必要がある。

g) 日本へ来たのは、つい一週間前のことです。

g') *娘が生まれたのは、つい3歳前のことです。

ついでながら、同じ内容を動詞に「ばかり」をつけて述べることも可能である。

h) 一週間前に日本へ来たばかりです。

h') *娘は3歳前に生まれたばかりです。

つまり、年齢は時間の幅を表すというよりも、時間が経過した到達点を表す語なので、単純な入れ替えができないのである。時間関連の語彙としては特殊なものである。

では、「きのう」だったらどうなるか。「きのう来たばかりだ」「ついきのうのことだ」、あるいは「日本へ来たのは、ほんのきのうのことだ」とは言えるが、他の言い方では「一日」を用いなければならない。

所要時間ではどうなるだろうか。誤用例の3)は「お宅は駅から遠いんですか。」「?? いいえ、5分だけです。」だが、「まだ」を除く、b)～f)は可能である。所要時間であれば、「あと5分でできあがる」というような近い将来についても同様である⁶⁾。

時間の少量表現の詳細な分析は今後の課題であるが、「まだ」で言い表せるものはごく一部に過ぎないことは明らかであり、初級段階から導入する必然性は乏しい。

6. おわりに

以上見てきたように、数量を伴った「だけ」の基本的な機能が限定表現にあることは戦前すでに知られていた。それは徐々に多くの人々による教え方の工夫の結果、教材として目に見える形になってきた。英語による解説も1970年ごろには only との違いが学習者に容易に理解できるものとなったことが明らかになった。

本研究の発端となった前原・小西(2006)の「だけ」が少量表現として導入されることが一般的だとする誤った認識は、どうも『日本語の基礎』にあるらしいことが調査の過程で浮かび上がってきた。初級日本語教科書として最も普及している『みんなの日本語』であるだけに、きちんとした文型理解に基づいた教科書への改訂を期待したい。

英語の only をはじめとする、多くの言語では「数量+限定表現」は少量

表現に使うことができる。そのため「だけ」を安易に外国語にあてはめるだけでは正しく教えたことにならない。先人の努力に学びながら、少量表現と限定表現の違いをきちんと学習者が理解できるような教材作り、教え方の工夫をさらに進めていかなければならない。

【注】

- 1) Much: quantity: kore — , so much; dore — , how much? ari — , all there are; watakushi — wa, as for me.
- 2) 前原・小西(2006)はこの解説の few を太字にし、下線をつけ、「少なさ」の表現であることを述べたものとしているが、解釈の誤りである。
- 3) 前原・小西(2006)は「コーヒーを1ばいだけ飲みました」を「たくさん飲んだんですか。」「いいえ、1ばいだけです。」と名詞文にすることができることから、「構文的なものではない」と結論しているが、「Qだけだ」がどのような文から産出されたのかを見落としている。
- 4) 2種類と言いながら、A～Bの3種に分けている理由は不明だが、限度と限定を一つと見なしたのであろう。山田孝雄の『日本文法学概論』(1936)では「だけ」は「限る意」と「程合」を表すとある。佐久間鼎の『現代日本語法研究』(1940)も「限るといふ用法と、程度を示すといふ用法とがあつて」と述べている。当時は「だけ」に「限定」と「程度」の用法があることが、知られていたのである。
- 5) 1980年代の初めにタイで中級クラスを担当した時、学生が「先生、これ安いですよ。10パーツですよ。」などと、よく言っていた。何度直しても、なかなか直らないので困ったが、タイ語の干渉というより、初級担当者の教え方に問題があったのだと思われる。
- 6) 将来のことについて述べる場合は、「あと5分だけ待ってくれ」というような「だけ」を用いた限定表現が多くなるであろう。

【参考資料】

- Alfonso, A. 1980. *Japanese Language Patterns*. Vol. 2. Sophia University
- 有馬俊子(1993)『日本語の教え方の秘訣上 —『新日本語の基礎 I』のくわしい
教案と教授法』スリーエーネットワーク
- 海外技術者研修協会(1974)『日本語の基礎』海外技術者研修調査会
- 海外技術者研修協会(1981)『日本語の基礎 II』海外技術者研修調査会
- 海外技術者研修協会(1990)『新日本語の基礎 I』スリーエーネットワーク
- 海外技術者研修協会(1992)『新日本語の基礎 I 教師用指導書』スリーエーネット
ワーク
- 国際協力事業団(1984)『技術研修のための日本語初級 1』国際協力サービスセン
ター
- 国際協力事業団(1984)『技術研修のための日本語初級 2』国際協力サービスセン
ター
- 国際協力事業団(1985)『Grammatical Notes 技術研修のための日本語』国際
協力サービスセンター
- スリーエーネットワーク編(1998)『みんなの日本語初級 I』スリーエーネットワー
ク
- スリーエーネットワーク編(2000)『みんなの日本語初級 I 教え方の手引き』ス
リーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク編(2001)『みんなの日本語初級 II 教え方の手引き』ス
リーエーネットワーク
- 対外日本語教育振興会(1970) *Intensive Course in Japanese Elementary;
Notes* ランゲージサービス
- 筑波ランゲージグループ(1992) *Situational Functional Japanese Volume 2 :
Drills* 凡人社
- 筑波ランゲージグループ(1992) *Situational Functional Japanese Volume
2 :Notes* 凡人社
- 長沼直兄(1950)『標準日本語読本巻一』長風社 1986
- 長沼直兄(1988)『長沼現代日本語一』開拓社
- 坂野永理他(1999)『初級日本語げんき I』Japan Times
- 松本亀次郎(1927)『改訂日本語教科書』金港堂書籍

水谷修・水谷信子(1977) *An Introduction to Modern Japanese*, Japan Times

【参考文献】

- 倉持保男(1969) 「だけ—副助詞〈現代語〉」 『古典語現代語助詞助動詞詳説』松村明編 学燈社
- 国際文化振興会(1944) 『日本語表現文典』国際文化振興会、 『日本語教授法基本文献 — II』冬至書房 1996
- 国際文化振興会(1944) 『日本語基本語彙』国際文化振興会、 『日本語教授法基本文献 — II』冬至書房(1996)
- 近藤泰弘(2007) 『日本語学研究事典』明治書院
- 佐久間鼎(1940) 『現代日本語法研究』厚生閣
- 青年文化協会編(1942) 『日本語練習用日本語基本文型』国語文化研究所、 『日本語教授法基本文献 — II』冬至書房(1996)
- ヘボン, J. C. (1886) 『和英語林集成』講談社学術文庫(1980)
- 前原かおる・小西円(2006) 「日本語における『少なさ』の表現をめぐって — 『数量表現+だけ』を中心に」 『2006年度日本語教育学会春季大会予稿集』日本語教育学会
- 山田孝雄(1936) 『日本文法学概論』宝文館 1989
- 山本忠行(1996) 「なぜ『だけ』の習得は難しいのか」 『創価大学別科紀要』10号 創価大学別科